

## 糖尿病患者の心理的負担の調査 ～保険薬局における PAID 分析～

○井口 嵩士 江川 侑希 高橋 諒吉  
総合メディカル株式会社 そうごう薬局大村東店

【目的】糖尿病患者は、うつ傾向にある患者が多いことが知られている。保険薬局における患者対応の中で、合併症や副作用、血糖コントロール等の確認は行っているが、患者の心理面の把握は十分に出来ていないのではないかと考えた。そこで、糖尿病とその治療に対する心理的負担を測定する PAID (Problem Areas In Diabetes、糖尿病問題領域別質問表) に注目した。今回我々は、治療上の負担が多いと考えられる 2 型糖尿病のインスリン使用者を対象として、PAID を用いて心理的負担の把握と分析を行ったので報告する。

【方法】2013 年 2 月～ 2013 年 4 月、そうごう薬局 6 店舗にて、2 型糖尿病患者のインスリン使用患者 110 名に対して、PAID の記入を依頼した。PAID は、20 項目の質問からなり、1 (私にとっては全く問題ではない) から、5 (私はそのことでたいへん悩んでいる) の 5 段階の中から数字を選択する形式である。PAID の集計結果を、質問項目別、男女別、インスリン使用歴別に分析・検討を行った。

【結果】アンケート回答者は 105 名、有効回答者は 93 名 (男性 : 54 名、女性 : 39 名) であった。心理的負担の高い 4 または 5 の回答が多かった質問項目は、将来の合併症への不安が 42 名 (有効回答数に対する割合 45%) で最も多く、次いで食生活への負担感が 37 名 (40%) であった。糖尿病を持ちながら生きていくことへの恐怖 (男性 : 13%、女性 : 31%)、将来の合併症対処への不安 (男性 : 11%、女性 : 33%)、糖尿病管理に脱線した時の罪悪感・不安感 (男性 : 20%、女性 : 36%) では、男女差が見られた。また、PAID スコア (平均値) をインスリン使用歴別に比較したところ、大きな差は見られなかった。

【考察】2 型糖尿病のインスリン使用患者では、合併症や食生活に対する心理的負担軽減のための支援が必要であることを再認識した。また女性の方が、将来への不安感や抑うつ感が強い傾向にあることが示唆された。これまで病院のみで実施されてきた PAID は、保険薬局においても患者の心理的負担の把握に有用であり、その結果に応じた心理面での支援が可能であると考えられる。今回の結果を用いて患者対応を継続した後、再度 PAID を実施し心理的負担が軽減したかの検証を今後行っていきたい。

【キーワード】PAID、2 型糖尿病、心理的負担、保険薬局